

『風は南から』

令和5年度 校長室便り
(6月28日)(第7号)



「沖高みらい探究プロジェクト」 第1回地域プロジェクト会議

6月22日(木)7限目に「沖高みらい探究プロジェクト」に係る第1回地域プロジェクト会議が開かれ、校外から知名町・和泊町の学校教育課、企画課、観光協会など、当プロジェクトに関わっていただく方々に御参加いただきました。会では、学校側から本年度のプロジェクトの概要や今後の計画について説明し、ご意見をいただきました。

「えらぶ仕事図鑑」に関しては、両町から取材先のリストを出していただき、生徒の皆さんの希望と照らし合わせて先生方が厳選して決定し、夏休みから取材が本格的にスタートすることになります。

委員の方々からは、取材先が重なることはないのか、仕事図鑑を見て直接その方と話をしたいという問い合わせはなかったのか、沖高生が卒業後島に帰ってきた時に利用する手立てはないのか、データベース化して卒業後も活用できるように工夫したらどうかなど、建設的な意見が多数出されました。

出された意見も生かしながら、みんなで知恵を絞り、昨年度より完成度の高い仕事図鑑になるように工夫していきましょ。

本年度も配布部数は2,000部で、主に島内の小学5・6年生と、中学生全員に配布する予定です。また、島内の方々をお招きして、成果報告会も実施する予定です。2年生の皆さんの頑張りに期待します。



「科学探究学習」

「沖高みらい探究プロジェクト」では、「えらぶ仕事図鑑」と平行して、希望者による「科学探究学習」も行うこととなります。本年度は、①再生可能エネルギー、②沖永良部島の土の成分について、③沖永良部島の水質調査、④島の医療問題、⑤人の心の5つのグループに分かれて、研究をスタートします。



6月22日(木)7限目に「第1回地域プロジェクト会議」と平行して、③沖永良部島の水質調査のグループに、東京大学大気海洋研究所の横山教授、同研究所の平林さん、産業技術総合研究所の福與さんの3人が、水質調査の方法についてご指導くださいました。

実際に3グループに分かれて水の採取・測定等を体験してもらいましたが、理解が早く、手際よくできて褒めていただきました。

横山教授が所属する大気海洋研究所は、亜熱帯化する日本の過去・現在・未来を大気海洋科学の観点から研究されています。そして、「海と希望の学校in奄美」というプロジェクトの一環で、与論高校・大島高校・古仁屋高校では、横山教授のご指導を受けながら、総合的な探究の時間を利用して、学校独自の取組が始まっています。今回は、沖高にも声がかかり、沖永良部島の水質調査が始まりました。この後、どんな分析がなされるのか大変興味深いです。

「ボクシングは孤独」 2年2組 森 香奈太 さん

僕がボクシングを始めたのは中学1年生の時だ。始めたばかりの頃はボクシングに対してそんなに興味もなかったし、僕は人から殴られるような痛いことも嫌だった。格闘技というよりも護身術のようなイメージで練習していたし、試合に出たいともあまり思っていないかった。

高校に入学して、僕と友達は2人で沖高ボクシング部を復活させた。学校が終わると2人で役場の近くのボクシングジムへ行き、厳しい練習をこなして終わると2人で帰るといって毎日を過ごしていた。僕たちは中学生の時から練習していたので、それなりに形はできていたし、自分の力を試してみたくもなっていた。入学してすぐの5月の県総体に僕たちは出場した。友達は初戦で負けてしまい、僕も2回戦で敗退した。でもそんなに悔しくはなかった。僕たちはまた練習に励むようになった。

そして夏、秋と時が過ぎ、友達は学校に来なくなり始めた。年が明けて2月には高校をやめると言い出した。僕は止めなかったが、彼の気持ちも思いつめなかった。練習には1月くらいから来ていなくなった。そのころから僕は、ボクシングは孤独なスポーツだと感じるようになった。特に走りに行くときに、校庭で練習しているサッカー部や野球部の姿を見ると、余計に自分が1人なんだと思わされる。でも僕は、なぜか1人の方が強くなれている気がした。友達と仲良しこよしで練習していた頃より、練習の強度が増し、集中できている。毎日のどがかれるくらい大声を出して、両足がつるくらい練習している。周りからは、僕は1人で練習してかわいそうな子に見えるかもしれない。時々友達にばかにされることもあった。でも言い返したりしなかったし、気にしてもいなかった。

2年生になり、そんな僕にも3人の後輩ができた。そして5月の県総体で準優勝することもできた。不戦勝もあり、運が良かったのもあるが、これまでの練習の成果が少し出ていると思う。ボクシングの魅力はたくさんあるが、僕は個人競技、自分との闘いという一面がボクシングの魅力だと思っている。もちろんチーム競技もよいと思うが、1人でとことんやりこむことのできるボクシングは僕に向いている。いいスポーツだと思う。

(6月19日付 南日本新聞 掲載)

卒業生より Surprise !

6月中旬に大きな段ボール箱が校長宛に届きました。中には、ボクシングのグローブやバレーボール用の膝当て等、たくさんスポーツ用品が入っていました。宛名に昭和56年卒和泉英仁様と書かれていたので、事情を聞くために早速連絡してみました。



和泉さんは、現在埼玉県にお住まいで、卸業の仕事をされています。沖高在学中は、ボクシング部に所属し、お父様は元沖高の教員で、ボクシング部を創設された、和泉哲人先生でした。もう亡くなられたようですが、ロンドンオリンピック金メダリストの村田涼太選手が恩師である武元前川さんのお墓参りに来島された時も、哲人さんは同行されています。

和泉さんは、沖高の後輩たちのために少しでも役に立ちたいという思いで、これまでも寄付をされているそうです。ボクシング部の森さんの活躍を伝えると、大変喜んでおられました。卒業生からのご支援には、いつも感謝しております。